

祝　辞

青森県教育委員会
教育長　風張　知子

「第７０回東北造形教育研究大会青森大会兼２０２６年度青森県造形教育研究大会東青大会」が、東北各地の先生方をお迎えし、ここ青森市で盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、長年にわたり図画工作・美術教育の発展に尽力され、日頃より情熱をもって御指導にあたられている皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。

現在、次期学習指導要領に向けた議論が進む中、急激に変化する社会において、他者と協働しながら自ら意味や価値を創造する資質・能力の育成は、一層重要視されております。図画工作科や美術科では、探究的な学びの充実やデジタル技術の活用をはじめとする新たな表現手法への対応が求められる一方、実物に触れ、手や身体を動かして感覚を研ぎ澄ます「本物体験」や、感じたことを自分らしく表現するプロセスの重要性が再認識されています。幼・小・中・高等学校を通じた学びの連続性を踏まえ、心豊かな人間性を育む造形教育の果たすべき役割は、ますます大きくなっていると言えます。

さて、ここ青森市では、特別史跡三内丸山遺跡をはじめとする縄文遺跡群から、太古の人々の豊かな感性や造形への祈りが込められた土器や土偶が数多く出土しております。遺跡に隣接する青森県立美術館には、棟方志功画伯の作品群や奈良美智氏による「あおもり犬」などが展示され、古代の造形美から現代アートに至るまで、時空を超えた美の系譜が脈々と受け継がれています。こうした「本物の芸術や文化」に触れられる環境は、こどもたちの探究心を育む大きな力となっております。

このような中、『「創る喜び　伝える喜び」～感性豊かに未来へつながる～』をテーマに、本大会が開催されますことは極めて有意義なことであり、大きな期待を寄せているところであります。
結びに、御尽力いただきました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本大会が実り豊かな大会になることを祈念し、祝辞といたします。